

文書館の逸品「田村梶子による手習本」



展示期間 令和7年5月1日(木)～6月29日(日)



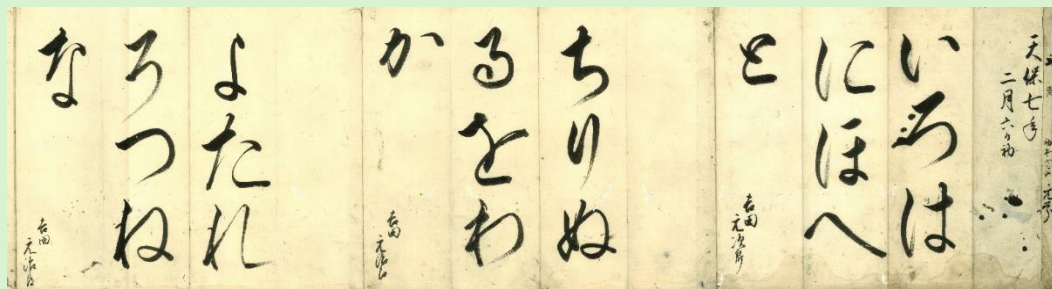
〔吉田元次郎、吉田歌子書手習本一括〕

年代不詳

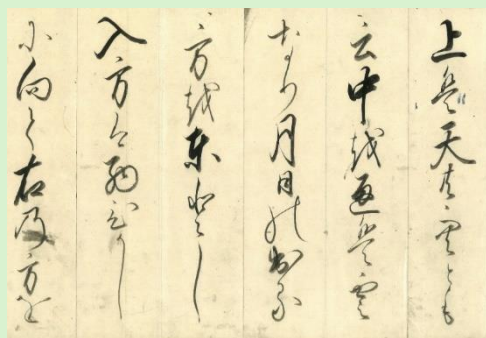
江戸時代の中期以降、寺子屋(手習塾、手習所ともいう)は庶民の教育機関として各地にできました。

この手習手本は、下久方(しもひさかた)村(現桐生市)の寺子屋(てらこや)松声堂(しょうせいどう)の女師匠である田村梶子が筆子(ふでこ)(弟子)の吉田元次郎のために書いたものです。

展示するのは、平仮名を学ぶ「いろは」、自然現象や衣食住などの語句を学ぶ「近道(ちかみち)子宝(こだから)」、当時の国名を学ぶ「国尽(くにづくし)」の3点です。



「いろは」



「近道子宝」



「国尽」

東京都千代田区吉田允俊家文書(橘守部関係資料)
(PF980189-90/406)

寺子屋教育に尽力した田村梶子

田村梶子は、天明5(1785)年生まれ、下久方村で寺子屋松声堂を主宰していました。桐生地方で女子教育の隆盛をうかがわせるものとして、女性師匠の活躍がありましたが、梶子もその一人でした。梶子は幕府の大奥に出仕して祐筆をつとめたといわれ、能筆家で礼儀作法に詳しく、和歌もたしなみ橘守部の門人でもありました。文久2年没。



参考文献：桐生教育史、写真：桐生市立図書館所蔵『田村梶子肖像画』

群馬県立文書館

〒371-0801 前橋市文京町3丁目27-26

TEL 027(221)2346 FAX 027(221)1628

URL <https://www.pref.gunma.jp/site/monjyokan/>
mail monjyo@pref.gunma.lg.jp